

第8回知多半島栄養サポートフォー

日時：2012年6月30日(土) 14:00～17:00

場所：中部国際空港 セントレアホール

愛知県常滑市セントレア1-1番地

TEL : 0569-38-7574

共催 知多半島栄養サポートフォーラム／株式会社大塚製薬工場

後援 半田市医師会／東海市医師会／知多郡医師会／東海市歯科医師会

経管栄養剤の自己注入に適した半固形化栄養剤の選択

知多市民病院 看護部¹⁾ 内科²⁾ 臨床栄養室³⁾ 臨床検査室⁴⁾
竹内圭二郎¹⁾ 宮本すみ子¹⁾ 東田ひろみ¹⁾ 石川敦子²⁾ 上原正美³⁾
早川芳枝³⁾ 江坂洋一⁴⁾

当院では自宅退院をする胃瘻患者に対して、手技の容易さ・短時間注入による家族の介護負担軽減を目的として既製の半固形化栄養剤(以下栄養剤)を用いている。今回、介護家族の協力が得られず、在宅療養をするために、患者自身による栄養剤注入が必要となり、自己注入の際に用いる栄養剤選択に苦慮した症例を経験したので報告する。

【症例】69歳肺炎で入院後は徐々に衰弱が進行、72歳肺炎で入院中に脳梗塞を併発し、経口摂取困難となり、胃瘻造設。患者が在宅療養を希望したため、退院調整を行ったが、介護家族の生活スタイルから胃瘻管理については家族の協力が得られず、患者自身による栄養剤注入が必要となった。患者はADLは自立していたが、長期に栄養不良状態にあり、筋力低下を認め、従来使用していた栄養剤では、栄養剤を押し出すことが出来なかったため、水分含有量が多く、軟らかく、栄養剤注入時に押し出す力もかからない栄養剤を選択し、患者指導を行った。

【まとめ】従来在宅療養する胃瘻患者に対して、家族の介護負担軽減を目的として栄養剤を選択してきたが、今回初めて患者自身が栄養剤注入を経験し、栄養剤選択においては、患者自身の筋力などの状況に適した栄養剤選択が重要と考えられた。

MEMO

半固形化栄養材の機能と臨床的有用性について

済生会松阪総合病院 内科・NST 清水 敦哉

胃瘻から投与される液体栄養剤の形状を半固形化することにより多くの臨床的効果が期待され、たくさんの半固形化栄養材や調整剤が市販される時代となった。2007年に日本栄養材形状機能研究会が設立され、半固形化栄養材の研究や調査が行われてきた。今回は過去の報告や文献をもとに臨床的有用性の現状と今後の研究課題について報告したい。

①胃食道逆流の減少による効果

半固形化栄養材を用いることで、胃食道逆流の頻度を軽減させることが可能とされている。さらに肺炎の発症を減少することも最近の RCT により証明された。しかし、逆流や肺炎を予防するためにはどのような物性や組成が必要であるかは今後の検討課題である。

②胃貯留や排出に与える影響

半固形化による胃排出の変化は一般的に遅延するとされてきた。しかし、最近の RI 法や超音波法などの直接法による観察では、液体は胃底部に残存しやすく、全体的な胃排出は半固形化のほうが早い傾向を示した。特に超音波による検討では液体で初期の流出による十二指腸ブレーキがみられたが、半固形化では出現しなかった。半固形化栄養材の投与が生理的な胃貯留と排出に繋がる可能性が示唆された。

③排泄への影響

半固形化栄養材により便性状が改善し、下痢が少なくなることが多く報告されている。しかし、この効果が形状に伴うものであるか、組成によるものであるかは判明していない。

④消化吸收、内分泌・代謝への影響

半固形化栄養材を長期使用した場合の消化吸收における効果についての報告はない。内分泌・代謝において食後の血糖やインスリン分泌を抑制される報告がある一方で、変化がなかったとする報告もあり検討が必要である。最後に半固形化栄養材で最も期待されることは誤嚥性肺炎の抑制と生命予後の改善である。多数例かつ長期間の検討が必要と思われる。